

情報連絡員からの報告（要旨）

《製造業》

食料品製造業

1. <青森県 菓子 >
青森市内に域外の大手菓子メーカー2店舗目が出店。青森市全域が商圈となり市内の菓子販売店にとって脅威となっている。また、原材料の値上がりが続いているため、原価が上がり収益悪化となっている。
2. <岩手県 パン >
輸入小麦の政府売渡価格の引き上げ等により、大手メーカーが7月から食パンや菓子パンなど一部商品の値上げに踏み切るが、県内ベーカリーの多くは値上げに対する消費志向を注視していきたいとしている。
3. <秋田県 パン >
売上は、前年同月比100%～101%で推移した。7月1日から主要な原材料が値上がりするため、大手パンメーカーと県内の一部パンメーカーでは、7%程度値上げを行う。
4. <福島県 ニット >
秋冬物の生産で忙しく稼働しているが、原料入荷の遅れにより納期遅れが出ている。売上は伸びてきているが、様々な経費高騰のため増益には繋がらない状況。
5. <山梨県 酒類 >
組合員は一生懸命頑張っているが、どうしても売上げが伸びない。やはりワインの場合、景気浮揚しない事には進展力が低く、ワインフェア等実施して、知名度を高めて、元気を出す方途を見い出していく。
6. <島根県 菓子 >
コロナも5類に引き下げられ、観光客や地元の客の動きも活発になり売上は上がっている。そんな中で、突然の地元百貨店閉店の発表がなされ、入店していた菓子店の経営者、社員に動揺が広がっている。

繊維・同製品製造業

7. <秋田県 繊維 >
雇用人員は前年同月比では不変だが、依然として不足傾向である。そのため、取引条件や販売が好転しても大幅な収益改善には至っていない。
8. <山形県 成人女子・少女服 >
6月は呉服関係は県外から消費者を呼び込んでツアーなどを実施し、まずまずの動きがみられた。しかし原料等の値上げや新規顧客の呼び込み不足のため収益には繋がっておらず、経営を圧迫している。
9. <茨城県 外衣シャツ >
高級品メーカーからの受注が入ったことと、単価が低いものについては、単価の見直しをしたために売上高が少し向上した。
10. <埼玉県 被服 >
外国人技能実習生が順調に入国していることもあり、生産は軌道に乗ってきている様子である。
11. <岐阜県 縫製・既製服 >
例年この時期は閑散期にあたるが、本年度は特に秋冬物の受注があり、原材料や資材の遅れがある。受注環境は好調であるが、資材、原材料が揃わないため、操業度は低調であった。
12. <福井県 織物 >
生産の国内回帰等もあり、受注状況は回復基調、原系メーカー・商社系列での受注形態が無くなり、既存以外の取引先からの引き合いが増えている。

木材・木製品製造業

13. <岩手県 一般製材 >
売上は木材製品の価格がウッドショック前の単価に近づき、売れ行きも少なく厳しい状況が続いている。見積依頼等はあるが中々数字に結びつかず、大型の物件が入ってこないと厳しい。
14. <秋田県 一般製材 >
市場が停滞しているため、販売数量・価格ともに下降が続いている。また、原木価格は下落しているものの、製品出荷量が少ないため、仕入に関しては保留している。
15. <福島県 製材 >
製材品の荷動きは低調で回復せず、価格も下落傾向にある中、市場への原木入荷量は需要に対し超過傾向が続いており、価格も値下がりが続いている。

16. **< 滋賀県 木材・木製品総合 >**
 木材価格が下落し、ウッドショック前の価格に戻ってきている。また、木の香家申請事業の新設の助成金申請は、6月末現在で67件であり、昨年度1年分の申請件数の半数に達した。
17. **< 兵庫県 木材・木製品 >**
 建築資材の価格高騰する一方で、木材需要は世界的に減退しているため、外材の輸入価格が低下し、国産材製品の価格を押し下げており、国内メーカーの収益が低下している。
18. **< 香川県 製材 >**
 建築資材の高騰等により、住宅建築の着工数が伸びておらず、需要が細ってきている状態が続いている。設備操業度も従来より20%減となっている。

紙・紙加工品製造業

19. **< 茨城県 段ボール >**
 業界全体の売上高は、前年割れ。大手企業も悪いが、我々中小企業は更に悪く売上高が前年同月比5~15%ダウンした所がある。買い控えが起きているのではと思えるほど、消費がされていないように思う。
20. **< 群馬県 紙製品 >**
 原材料・資材価格の上昇に加え、電気料金や輸送費の高騰、人手不足等、課題が山積し深刻な状況にある。物価上昇による買い控えもあり、販売数量は落ち込んでいる。
21. **< 東京都 紙加工品 >**
 原材料やエネルギーの価格高騰に加え、部品の調達難や人手不足など課題が山積している。得意先との仕事量や価格転嫁の交渉に苦慮している。
22. **< 岐阜県 機械すき和紙 >**
 ユーザー各社からの受注数量が減少している。紙業業界は、業者間の格差はあるものの、売上高・在庫数量は減少したが、販売価格は上昇した。業界の景況は先が見通せず、先月に比して悪化となっている。
23. **< 高知県 機械すき和紙 >**
 紙製品の価格が高騰している為か、買い控えの動きがみられる。県内家庭紙メーカーが得意とする高付加価値商品の需要に期待する。価格転嫁は浸透しつつあるが、需要が思うように伸びない。
24. **< 佐賀県 製紙・加工 >**
 今年度に入ってから売上は前年を上回り、コロナ前の水準に戻りつつあるが、原材料・副資材値上げによる製品の価格転嫁によるものが大きく、受注数は伸び悩んでいる。

印刷

25. **< 岩手県 印刷・同関連 >**
 受注残高も増加傾向にあるが、コロナ禍前の80%前後にとどまっている。観光シーズンを控えて印刷需要の増加を期待するが、紙媒体の印刷物は全体的にみて減少傾向にあるので多くは期待できない。
26. **< 福島県 印刷・同関連 >**
 経済活動が活発となり印刷需要が上向きになりつつあるが、ペーパーレス・デジタルシフト等によりコロナ前に戻るかは不透明。環境変化への対応が必要。
27. **< 茨城県 総合印刷 >**
 各種イベントの開催がリアルで規制のかからないものに戻ってきており、僅かながら印刷物の需要回復面では期待できるが、毎年6~8月のこの時期は印刷物の需要が少なく、資金繰り、採算面ともに厳しい。
28. **< 栃木県 印刷 >**
 イベントや観光など多少動きが出てきたが、全体的に低調。原価の上昇分を価格転嫁しているが、材料価格の上昇分に追いつかない。企画の提案や付帯サービスの提供などで付加価値アップを模索している。
29. **< 高知県 印刷 >**
 売上高等、設備操業度低下と6月度は悪化。観光に関する印刷物等が好調な部分も見られるが、官公需及び一般印刷物は低調。来月以降夏場の日需要期に向かうので不安感が漂う。
30. **< 宮崎県 印刷・同関連 >**
 原材料の価格高騰や人件費の引き上げに対して、どのように転嫁させていくか非常に重要なことだ。市場景気は少しずつよくなっているとはいえ、コロナによる影響がなかなか回復していないので厳しい。

化学・ゴム

31. **< 長野県 プラスチック製品製造業 >**
 6月の売上に関しては、値上げ交渉が概ね完了した効果もあり、増加している。収益面に関しては、少しずつでも経費を抑えることで黒字で推移した。
32. **< 愛知県 高圧ガス >**
 コスト上昇に伴う価格是正が進み販売価格は上昇傾向にあるが目立った収益改善には繋がっていない。燃料代、輸送費等の上昇が続いており厳しい状況に変わりはない。

33. <京 都 府 プラスチック製品 >
生産活動の状況について、受注は減速・鈍化気味、もしくは足踏み状況とされるところが目立った。
34. <奈 良 県 プラスチック製品 >
生産調整と在庫調整の影響を受け、前年よりも生産高が減少に転じている企業が増えてきている。販売価格への転嫁が思うように進んでおらず、依然黒字幅の減少が続いている。
35. <島 根 県 プラスチック製品 >
受注状況は引き続き昨年比で下降傾向（96%程度）。自動車関連含め変動が大きい。フォーキャスト通りのオーダーが入らず余剰在庫になる場面が増えており、客先と調整を行っている。
36. <広 島 県 プラスチック製品 >
諸材料・電気代の高騰分を、価格転嫁に反映することができず、収益性が悪化している。円安で、更なる原材料の高騰が危惧される。

窯業・土石製品製造業

37. <栃 木 県 陶磁器・同関連製品 >
5月に続き6月も売上が落ちている。観光客も週末を除くとほとんどいなく、製造業者も作品作りを控えているようだ。外から仕入れる原料や燃料高騰も要因なのかもしれない。
38. <千 葉 県 生コンクリート >
建設現場の人手不足などによる工程や着工の遅延により、出荷が落ち込んでいたが、ようやく工事が進み出した。原材料費の急騰が経営を圧迫、早急に生コン価格への転嫁が必要である。
39. <東 京 都 砕石 >
天候の影響で設備の稼働が減少している。需要は相変わらず鈍い。値上げについては交渉中である。
40. <山 梨 県 骨材・石工品等 >
工事の件数が少なく製品の需要が減少しているため、前年同月と比べ売上げ・収益状況ともに▲10%となった。
41. <福 岡 県 砕石 >
依然として販売数量増大に結び付くものがなく、エネルギーコストは厳しく響いており経営的に厳しい状況が継続している。
42. <沖 縄 県 生コンクリート >
6月の出荷実績は、対前年比で9.6%減となった。民間工事においては、対前年比で16.2%減となり、社屋関連工事が大幅な減少の要因となった。

鉄鋼・金属製造業

43. <宮 城 県 機械金属 >
売上高は、業種によりバラつきが見られ、全体としては停滞気味。新型コロナの5類に移行後に社会経済活動は持ち直しつつあると思われるが、景況感に大きな変化は見られず、むしろ悪化傾向にある。
44. <三 重 県 鍍金 >
業界の生産額は、前月と比べ、やや増加傾向であった。自動車産業が動いてきていることもあり、川下企業も今後動いてくると思われる。電気代は落ち着いているものの、収益低迷の主な要因となっている。
45. <兵 庫 県 金属製品 >
6月の景況について、前年同月比で見ても売上が減少傾向にあり販売価格の値上げも一巡してきている一方、仕入れ価格のコストアップにより収益が悪化しており、厳しさが増している。
46. <和 歌 山 県 金属製品 >
業界全体として、業況、売上高が徐々に改善されてきており、受注状況としても増加の傾向であるが、原材料の上昇に伴い売上単価が追いつかず、利益の確保が厳しくなっている。
47. <徳 島 県 鉄鋼 >
業況感は、少しではあるが良い方向に改善されつつある。コロナ第5類への移行後、景気は上向きとなっているが、電力料金の値上げをはじめ諸物価の高騰が続いており、今後の価格動向にも注視が必要。
48. <香 川 県 鍍金 >
発注メーカーの復調が当業界へ好影響を及ぼしている。課題としては採用難を如何に克服するかであるが、新卒初任給を上げれば必然的に現有社員の更なる賃金上昇となり、引き上げし辛い。

一般機器製造業

49. <群 馬 県 はん用機械器具 >
原材料価格の上昇に対する転嫁は順調でないまでも進んでいるが、電気料金に対するものは時間がかかる見込み。積極的に設備投資を行う組合員もみられ始めた。

50. < 埼玉県 一般機械機器 >
昨年同時期より2割程度好転した。業界にも活路が見え始めたかなという状況である。
51. < 愛知県 めっき >
自動車の生産が上向きつつあるため、売上の増加した企業が増えてきた。また、価格転嫁についても価格が上がった企業が増えてきたが、今後、円安の影響や電気代の上昇が懸念される。
52. < 鳥取県 電気機械器具 >
部材の調達は安定してきたが、依然として人手不足が続いている。受注は先行き不透明になりつつある。賃上げ、電気代等の高騰による製造原価のアップ分を価格転嫁できる状況ではなく、利益確保は難しい。
53. < 島根県 一般機械器具 >
業界の景況としては、農業機械、耕作機械ともに好調である。ふるさと島根定住財団からの紹介で名古屋からのUターン者を採用予定。
54. < 山口県 装置製造 >
5月に続いて6月も周南コンビナート大型修繕工事、出張工事等により繁忙であった。例年夏場は閑散期となるが、熊本県での半導体製造工場の建設工事関係に携わっている企業にとっては繁忙となる模様。

電気機器製造業

55. < 福島県 電子部品 >
海外のコロナ政策の緩和により、バッテリーや通信機器等の電子部品の輸入量が拡大傾向に。労働者不足が加速する中、製造業分野でも外国人起用の検討や採用が始まっている。
56. < 群馬県 電気機械器具 >
部品の流通が不安定で一部では生産調整が続く。今後、九州や北海道の国内半導体の生産が本格化する見込みであり、一層の期待が持てる。
57. < 新潟県 電気機械器具 >
部品の欠品のため、製品出荷が出来ず売上が減少した。また、欠品が多くリードタイムが長いと、材料手配を早めにするので在庫が増加した。
58. < 山梨県 電気機械器具 >
官公庁は、年度末需要が終了したので、一服感がある。民間需要は、改修工事が新規工事より活発で、特に海外工場から国内生産に戻り、生産設備の省エネ・高機能化が求められている。
59. < 京都府 電機機械器具 >
受注は増加しているが、操業負荷に対応する人員の確保に苦慮している。採用難が継続するなか、生産性を向上させるため製造工程の見直し、業務の効率化、多能工化等打開策を模索している。
60. < 広島県 電気機械器具 >
売上は前月比+5%、前年同月比▲7%となった。中国の生産が復調傾向にあり、日本国内の生産量の減少をもたらしている。また、半導体の納期遅延により、仕掛品が増加傾向にある。

輸送用機器製造業

61. < 茨城県 自動車部品 >
生産高は上昇傾向にあるものの、組合員間の業績にばらつきが生じてきた。完成品を納入できず、社内で保管している会社もある等、従前にはなかった課題も生じている。
62. < 群馬県 輸送用機械器具 >
脱炭素化に向けた環境配慮型船舶の開発が進み、既設船との入れ替え需要が見込まれる。海運大手は増収増益で業界の好調さが窺える。
63. < 静岡県 輸送用機械器具 >
半導体に関連する部品調達の影響は解消されつつあり次月以降は生産が安定することを期待している。ただし、水害の多発する時期でもあり減災対策の取組みを組合員企業に働きかけている。
64. < 愛媛県 造船 >
日本人の雇用が厳しく、外国人労働者の雇用に積極的な組合員が増え、特定技能制度での受入れが増加している。技能実習から特定技能への移行手続きも増加している。
65. < 三重県 輸送機器 >
新型コロナ関連融資の返済期限到来や約定返済開始により、資金繰りがタイトになっている。
66. < 大分県 造船 >
工期短縮（船台期間短縮）による人員不足のため、工事が職種にかかわらず、進捗が遅れ気味である。人員確保のためいろいろな方面、いろいろな角度から動いているが、日本人は確保できず苦慮している。

その他の製造業

67. <秋田県 曲げわっぱ >
インバウンドの回復により、首都圏での売上は回復傾向にあると感じている。一方、県内のインバウンドについてはそれほど実感はなく、期待をもって今後に備えたいと考えているが、人材不足が懸念される。
68. <福島県 漆器 >
来店客の売上はコロナ前まで復調しているが、購入につながらない客が増加し、インバウンドも弱かった。百貨店等消費地の動きはほとんど見られず、コロナ禍での廃業等により生産に支障が出てきた。
69. <東京都 靴 >
秋物の受注はでそろったが、概ね前年より若干増加した。新型コロナウイルス感染症の感染法上の分類が5類に移行されたことを受けて、市場の活性を期待したが肩透かしであった。
70. <石川県 漆器 >
6月中旬より観光バスなどが急に少なくなっている。能登地震の影響が観光面において出ているのかもしれない。輪島市でも7月から宿泊割やガソリン割が始まるので期待したい。
71. <福井県 眼鏡工業 >
組合役員で中国のフレームメーカー・加工機メーカーの視察調査を実施。鯖江よりはるかに機械化が進んでおり、メタル・セルとも十分な加工品質であった。今後中国からの機械導入を具体的に検討。
72. <奈良県 毛皮革 >
毛皮加工は来シーズンに向けて、定番商品の加工注文が入り始めた。また、新商品開発を模索し、オリジナル商品を作っている事業所も増えてきている。

《非製造業》

卸売業

73. <岩手県 水産物 >
全ての部門において取扱量、取扱金額ともに前年同月を上回った。中でも冷凍魚の取扱量が前年同月比で15.3%、取扱金額が前年同月比22.8%と大きく増加しており、今後も取扱量の増加に期待。
74. <神奈川県 菓子 >
売上は変わらず3割減が続いているようだ。6月も値上げに伴う事務作業の増加は続いており、大変な負担になっている。また、原料としての卵が不足しており卵を使った製品の休売も続いている。
75. <富山県 セメント >
昨年、売値を大幅に上げた結果、価格差に誘引され、相当数、員外組合員のホームセンターのセメント袋に流れたと思われ、乖離幅が縮小しない限り、この傾向は続くと思われる。
76. <大阪府 衣服・身の回品 >
売り上げはコロナ禍に比べやや持ち直し感はあるものの、再び円安局面になり採算面は厳しい。業界環境同様、諸経費(水道高熱・運送費他)の高騰から売上増加も経費で相殺されている状況である。
77. <熊本県 各種商品 >
建設資材関連卸は仕入れ価格の上昇に伴う価格転嫁による見かけの売上高が増加したにすぎないが、昨年と比較するとやや持ち直した感がある。一部業種では在庫数量が増加し、保管倉庫不足となっている。
78. <鹿児島県 水産物 >
昨年同月比で、数量105.2%、金額118.4%、単価112.5%となった。水揚げも順調で、コロナも落ち着き人の流れも活発になってきている。鹿児島では、国体に向けての準備があり、良い方向に向かっている。

小売業

79. <秋田県 みやげ品 >
全国旅行支援の効果により、売上は前年同月比220%と、コロナ前の実績に近づいてきている。
80. <山形県 電気機械器具 >
エアコンや冷蔵庫などの夏物商品が動き出した。省エネ性の高い家電品の提案を行い、山形県や山形市の家電買い替えキャンペーンや東北電力のエコ替えキャンペーンを活用し販売に結び付けている。
81. <栃木県 各種商品 >
コロナ感染対策の緩和やイベント等の増加による人流の回復により、飲食店を中心に景況は改善傾向である。一方で、物品販売は苦戦している。地方はインバウンドの影響も少ない。
82. <群馬県 花 >
株主総会のシーズンであり胡蝶蘭等の祝花が活発に動いた。コロナ流行前水準の9割程度まで回復している様子。
83. <新潟県 化粧品 >
6月の状況は、昨年の売上を維持できたという店が多いようである。高級化粧品の売上は回復傾向にあると聞いている。来店回数はまだ回復していない。化粧品の路面店はまだまだ回復までは至っていない。
84. <石川県 鮮魚 >
売上高は対前年、対前月においても増加した。魚の買い付け価格が3割ほど増加しているが、収益率は悪化している。仕入価格の上昇に伴い、売価を上げ切っていない商品もあり、厳しい状況が続いている。

商店街

85. <青森県 商店街 >
コロナ前ほどではないが観光などの目的客は戻りつつあり、往来客は微増だが新店舗などが増えてきている。円安の影響もあり、良い品を安い価格で提供している日本への海外旅行客が増加している。
86. <奈良県 商店街 >
商店街に人の流れが戻り、活気が出てきている。新規店舗(飲食店)では、昼間は行列の状態で、周辺店舗でも良い影響が出ればと思っている。医療関係では患者さんが微増している。
87. <香川県 商店街 >
新型コロナウイルス感染症の警戒感は薄れて、外出や買い物には以前の行動が戻っていると感じる。県外からの観光客も多く、外国人も目にする。

88. <高知県 商店街 >
飲食店らが賑わい、二次会の店舗にも少し流れを感じられるようになった。夏祭りに向け、商工会、市役所と協力体制で準備中。
89. <福岡県 商店街 >
商店街の空き店舗状況が新規参入店が増加したので好転した。又新規店舗が売上好転となり、さらに新入業種が増える相乗効果が見られ、既存の店舗にも好影響を及ぼす結果となっている。
90. <大分県 商店街 >
来街者も戻ってきた感はあるが物価高によりまだ消費者の財布の紐はかたい。しかし、アフターコロナを見据え、大手を中心に来店意欲が旺盛になってきた。

サービス業

91. <宮城県 廃棄物回収 >
5月より新型コロナが5類に移行し、これまで自粛されていたイベント等の再開により、経済活動が活発になり景況が好転すると良いのだが、物価高や燃料費高騰を価格転嫁しにくい状況が続いている。
92. <神奈川県 温泉旅館・ホテル >
国内旅行客の動きは鈍いが、外国人旅行客に助けられ売上増加を維持している。外国人客比率が高くなっていることで、細かなトラブルが発生している。人手不足とタクシーの不足が深刻な状況になっている。
93. <静岡県 宿泊 >
GW後の動きが鈍かったが、予想より早くインバウンド予約が伸び始め、特に欧米からの個人旅行が増加している。各種観光イベントが通常に近い形で実施されるようになり、繁忙期での集客を期待する。
94. <京都府 旅館 >
本年3月に海外からの入国制限が緩和されて以降、一気に海外からの観光客が増えた。宿泊料金はコロナ禍前よりも高くなっているが、それでも外国人観光客を中心として需要は高くなっている。
95. <岡山県 旅館・ホテル >
前年同月より売上高が減少した施設が3分の2を超えている。地域全体としては宿泊客は若干の減少に留まっているが、全国の旅行支援がなくなる7月以降は今までにない落ち込みをみせると予想される。
96. <長崎県 旅館 >
ようやく新型コロナウイルス感染症による行動制限等が緩和され、人々が動き出した。全国旅行支援の施策もあって宿泊は好調であり、飲食もコロナ禍以前の6割程度まで回復している。

建設業

97. <北海道 塗装工事 >
受注件数の増加及び売上高の増加から景況は好転の兆しがうかがえる。ただし、新たな人員の雇用に関しては厳しい状況にあり、事業量の増加に伴う必要な従業員の確保ができない状況にある。
98. <岩手県 塗装工事 >
景気が元に戻りつつあるように見えるが、塗料・資材の高騰は続いており、加えて公共工事の大幅減少や民間需要が伸び悩み企業間格差が大きくなりつつある。特に零細業者が苦しい状況である。
99. <宮城県 硝子 >
昨年から続く材料価格の値上げ分を工事請負価格に転嫁しにくくなっている。全体的に工事量も減少傾向にあるのだが、震災前の過度な価格競争は避けたい。
100. <茨城県 総合 >
公共工事の入札は活発化しているが価格競争は激しいまま推移している。この状況は当分おさまらない見通し。工事受注額及び利益は減少傾向にある。その状況の中で人手不足も深刻である。
101. <静岡県 総合工事 >
2024年問題の話を業界関係者からよく聞くようになった。内容は運賃値上げと配達時間の増加。これらのことが当たり前になれば手配等をもっと早く行わなければならない、人手不足の中さらに負担が増える。
102. <山口県 管工事 >
官公需入札は順調に公表されており、令和5年度の仕事量は確保できるものと一安心している。人手不足は依然として解消せず、70歳代の作業者がいる状況で、夏場の暑さや災害時の作業において不安がある。

運輸業

103. <長野県 道路貨物 >
輸送原価は上昇基調にある一方、価格転嫁は遅々として進んでいない。さらに一般貨物、特積みの輸送数量が減少し、営業利益及び経常利益を圧迫したことから、組合事業者の景況感は悪化した。
104. <静岡県 道路貨物 >
燃料が高止まりする中、荷主との価格交渉も、話を聞いてはくれるが運賃値上げもごく一部であり、多くがコストに見合わない若干の値上げにとどまっている。

105. < 岐 阜 県 貨 物 >
長引く燃料価格の高騰の影響が懸念される。荷主側の理解により運賃への価格転嫁が進んでいるが、原材料費、光熱費並びに人件費等の上昇分を賄うほどの額ではなく、今後も厳しい経営環境が続く。
106. < 大 阪 府 貨 物 >
問い合わせ件数、見積依頼件数および受注件数は微増となった。特に法人引越の受注が増加。ただし資器材および燃料の価格高騰が続いていることによって経費も増加しているため、収益は前年と同等。
107. < 岡 山 県 ト ラ ッ ク >
中小運送事業者は、各種費用の増加分を運賃に転嫁できず、経営はより一層厳しいものとなっている。運賃に関し、行政庁からも荷主企業に対する働きかけが行われはじめており、その効果を期待したい。
108. < 山 口 県 一 般 貨 物 自 動 車 >
輸送関係は車両物資の輸送が約1割強の増加。平均的に物流稼働はみられるものの輸出向けが鈍く国内向け輸送が活発で、中小運送業者は全体的な増加を望んでいる。燃料関係は変化なし。

その他の非製造業

109. < 千 葉 県 輸 出 入 >
先月後半の旅行者の落ち着きが、そのまま6月にも引き継がれ、週末以外は、売上の的にも勢いが欠けているようだ。商品数も大分増えてきたが、外国人旅行者の購買力にやや陰りが表れてきた。
110. < 神 奈 川 県 質 屋 >
これまで質屋が扱う主流の品物だった家庭に眠る宝石、貴金属、高級時計などがリサイクルショップや買取専門店が増えたことによりその絶対量が少なくなってきたように感じる。
111. < 新 潟 県 砂 利 採 取 >
価格改定はスムーズに進んでいる。恒常的な早出残業経費の割増しという形での価格への転嫁については、一部の客先への請求ができています。徐々にダンプカーの不足が始まっている。
112. < 奈 良 県 質 屋 >
為替相場が140円台/ドルと再び円安になってきており、海外向けのブランドジュエリーや高級時計の相場が上昇傾向にある。また、ブランドバッグの相場は安定傾向にある。
113. < 兵 庫 県 物 品 質 貸 >
特に大きな状況の変化はないが仕事量は昨年と比較して増加傾向は続いている。ただ資材関連の価格上昇は依然継続しており利益を圧迫している状況が続いている。
114. < 広 島 県 不 動 産 >
不動産市場については、材料費の高騰や人手不足で、戸建住宅、共同住宅の建築等が減少しているが、マンション販売については、近時新築マンションの建築・販売が増えている。